

## 耐震診断結果一覧表

| 建築物の名称 | 建築物の位置             | 建築物の用途 | 耐震診断の方法の名称 |  | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価結果 |        |      |                                 | 耐震改修等の予定 |  | 備考 |
|--------|--------------------|--------|------------|--|---------------------------|--------|------|---------------------------------|----------|--|----|
|        |                    |        |            |  | 内容                        | 実施時期   |      |                                 |          |  |    |
| 〇〇〇〇ビル | 台東区<br>▲▲<br>1-1-1 | 〇〇     | 5-6        | 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) | 鉄骨が非充腹材の場合                | Is/Iso | 1.01 | C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub> | 0.49     |  |    |

①

②

### 耐震診断義務付け対象建築物の耐震診断の結果の公表について（技術的助言）【抜粋】

| 耐震診断の方法   | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性  |  |   |
|---|---|--|---|
|   | I<br>(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)   | II<br>(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。) | III<br>(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)   |
| 5-6<br>一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版) | 鉄骨が充腹材の場合<br>$Is/Iso < 0.5$ 又は<br>$C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$ | 左右以外の場合                                | $1.0 \leq Is/Iso$ かつ<br>$0.25 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$ |
|   | 鉄骨が非充腹材の場合<br>$Is/Iso < 0.5$ 又は<br>$C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U$ | 左右以外の場合                                | $1.0 \leq Is/Iso$ かつ<br>$0.28 \cdot Z \cdot Rt \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$ |

③

- ①耐震診断結果から「耐震診断方法の名称」を確認し、技術的助言の表から同じ「耐震診断の方法」を探します。
- ②耐震診断結果から「安全性の評価結果」の数値を確認し、①で探した欄と照らし合わせます。
- ③照らし合わせた結果から耐震診断結果の「安全性の評価（I、II、III）」が決まります。

## 安全性の評価（Ⅰ～Ⅲ）について

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については、建築物の所有者から報告された耐震診断の結果を平成 31 年 1 月 1 日国住指第 3209 号別表に当てはめたものです。

- Ⅰ. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- Ⅱ. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- Ⅲ. 大規模の地震※の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度 6 強から震度 7 に達する程度の大規模な地震

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度 5 強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。